下筒井区の歴史

【黒男神社】

御祭神は、いろいろな説があるが今は、息長帯日売神[神功皇后]と武内宿禰命で応神王朝の樹立[西暦270年頃]に大いに貢献した人であり、長寿・忠誠・奉仕などの高い御神徳がある。

また、宇佐神宮の境内には黒男神社があり、武内宿禰命が祭られている。

村の鎮守様と慕われ昔から子供達の遊びとなっており、神社は別名「九郎神社」「盗人の宮」「留守殿の宮」等様々な呼び名がある。

これらにはいろいろな伝承があるが詳しくは赤司岩雄著の「大野城市巡杖記」を見ていただきたい。

拝殿は明治40年に改築以来百年の歴史を経て、今回総改築をし、平成19年3月25日に改築落成式をした。

また、境内には二つの石神様が祭られており、阿波嶋大明神と塞大神である。

盗人の宮（ぬすっとのみや）

詳しくは、大野城市ホームページ「盗人の宮（ぬすっとのみや）」をご覧ください。

【阿波嶋大明神】

婦人の下の病に霊験あらたかな神であり、子授け、安産祈願の神であり、大野城市内には阿波嶋様はこの一基だけである。

【塞大神】

道祖神、道の神として信仰され、猿田彦大神とも習合して性の神にもなり、男女良縁妊娠出産、幼児守護、子孫繁栄の神である。

【黒男神社祭事】

春ごもり　　四月十五日前後
夏ごもり　　七月十五日前後
宮 座 祭　　十月十五日前後
元 旦 祭　　元旦

【春日原停留所運動場道の碑】

下筒井公民館より100mほど北へ行くと、新川緑地公園の一角に記念碑が建っている。

正面には、春日原停留所運動場道、裏面には「大正13年5月開設　大野村」、左側面には「此道路敷地並工事費寄贈者　草壁幸市」と刻まれている。

大正13年[1924年]4月12日に九州鉄道[現在の西日本鉄道]が福岡から久留米間に電車を開通し、春日原停留所[現在の春日原駅]が設置された。

駅前には野球場・陸上競技場・テニスコートが造られた。

当時の幹線道路日田街道から駅に至るまでは、雑木林の中を通り抜ける小道敷かなかったと言う。

このため大正 13 年の大野村議会にて議決され村道に認定された。

道路建設費 1,830 円を寄付した草壁幸市氏には、大野村名誉公民章が附与された。

[大野城市巡杖記より]